

# 2018年度 第2四半期 決算説明会

2018年11月5日

三菱ガス化学株式会社

証券コード：4182

## 目次

**1** | **2018年度 第2四半期 決算概要**

**2** | **2018年度 通期 業績予想**

**3** | **セグメント別 業績概要**

# 1 | 2018年度 第2四半期 決算概要

## 2 | 2018年度 通期 業績予想

## 3 | セグメント別 業績概要

## 2018年度 第2四半期 業績のポイント

- ◆ 増収も、営業減益。ただし、持分法利益貢献し経常増益を確保
- ◆ 営業利益：
  - (+) ①ポリカーボネート(PC)の市況上昇  
②特殊PC、BT材料等の販売数量増加 等
  - (-) ①原燃料価格の上昇、②高純度イソフタル酸の市況下落 等
- ◆ 持分法利益：メタノール市況上昇等により増益
- ◆ 前回予想比：持分法利益の増加等から上振れ
- ◆ 配当：中間35円（対前年+11円、前回予想と同額）

## 2018年度 第2四半期 業績サマリー

- 営業利益は減益も、持分法利益の増加で経常利益以下は増益

【単位：億円】

	2018年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	増 減		2018年度 2Q累計 前回予想*
			金額	%	
売上高	3,283	3,029	254	8.4%	3,200
営業利益	289	302	▲13	▲4.4%	270
(持分法利益)	(172)	(104)	(67)	-	(110)
経常利益	465	420	45	10.8%	380
税金等調整前四半期純利益	471	423	47	11.1%	390
親会社株主に帰属する四半期純利益	379	354	24	7.0%	300

\* 2018年5月9日公表

一株当たり四半期純利益(円/株)	177.51	164.28
為替レート(JPY/USD)	110	111

為替影響：売上高▲5億円、営業利益▲2億円、経常利益▲3億円

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

## 2018年度 第2四半期 営業外損益・特別損益

【単位：億円】

	2018年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	増 減
<b>営 業 外 損 益</b>	<b>175</b>	<b>117</b>	<b>58</b>
持分法による投資損益	172	104	67
金 融 収 支	12	11	1
為 替 差 損 益	▲ 0	7	▲ 7
そ の 他	▲ 8	▲ 5	▲ 2
<b>特 別 利 益</b>	<b>15</b>	<b>8</b>	<b>6</b>
投資有価証券売却益	8	8	▲ 0
固 定 資 産 売 却 益	7	-	7
そ の 他	-	-	-
<b>特 別 損 失</b>	<b>▲ 10</b>	<b>▲ 5</b>	<b>▲ 4</b>
債務保証損失引当金繰入額	▲ 6	-	▲ 6
投資有価証券評価損	▲ 3	▲ 3	▲ 0
そ の 他	-	▲ 1	1

- **持分法利益**

天然ガス系化学品+60  
機能化学品+8 等

- **債務保証損失引当金繰入額**

カナダ シェールガス・LNGプロ  
ジェクトに関する損失を計上

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。

## 2018年度 第2四半期 貸借対照表

【単位：億円】

科目	2018年 9月末	2018年 3月末	増減
<b>流動資産</b>	<b>3,814</b>	<b>3,842</b>	<b>▲27</b>
現金預金	889	1,010	▲121
売掛債権	1,663	1,656	7
棚卸資産	1,123	1,037	86
その他	138	137	0
<b>固定資産</b>	<b>4,201</b>	<b>4,014</b>	<b>187</b>
有形固定資産	2,242	2,207	35
無形固定資産	90	84	6
投資その他の資産	1,868	1,723	145
<b>資産合計</b>	<b>8,016</b>	<b>7,856</b>	<b>159</b>

科目	2018年 9月末	2018年 3月末	増減
<b>負債</b>	<b>2,496</b>	<b>2,665</b>	<b>▲168</b>
買掛債務	863	887	▲23
有利子負債	927	1,069	▲142
その他	705	708	▲2
<b>純資産</b>	<b>5,520</b>	<b>5,191</b>	<b>328</b>
株主資本	4,861	4,556	305
その他包括利益累計額	140	117	22
非支配株主持分	518	517	0
<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,016</b>	<b>7,856</b>	<b>159</b>
自己資本比率	62.4%	59.5%	

## 2018年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書

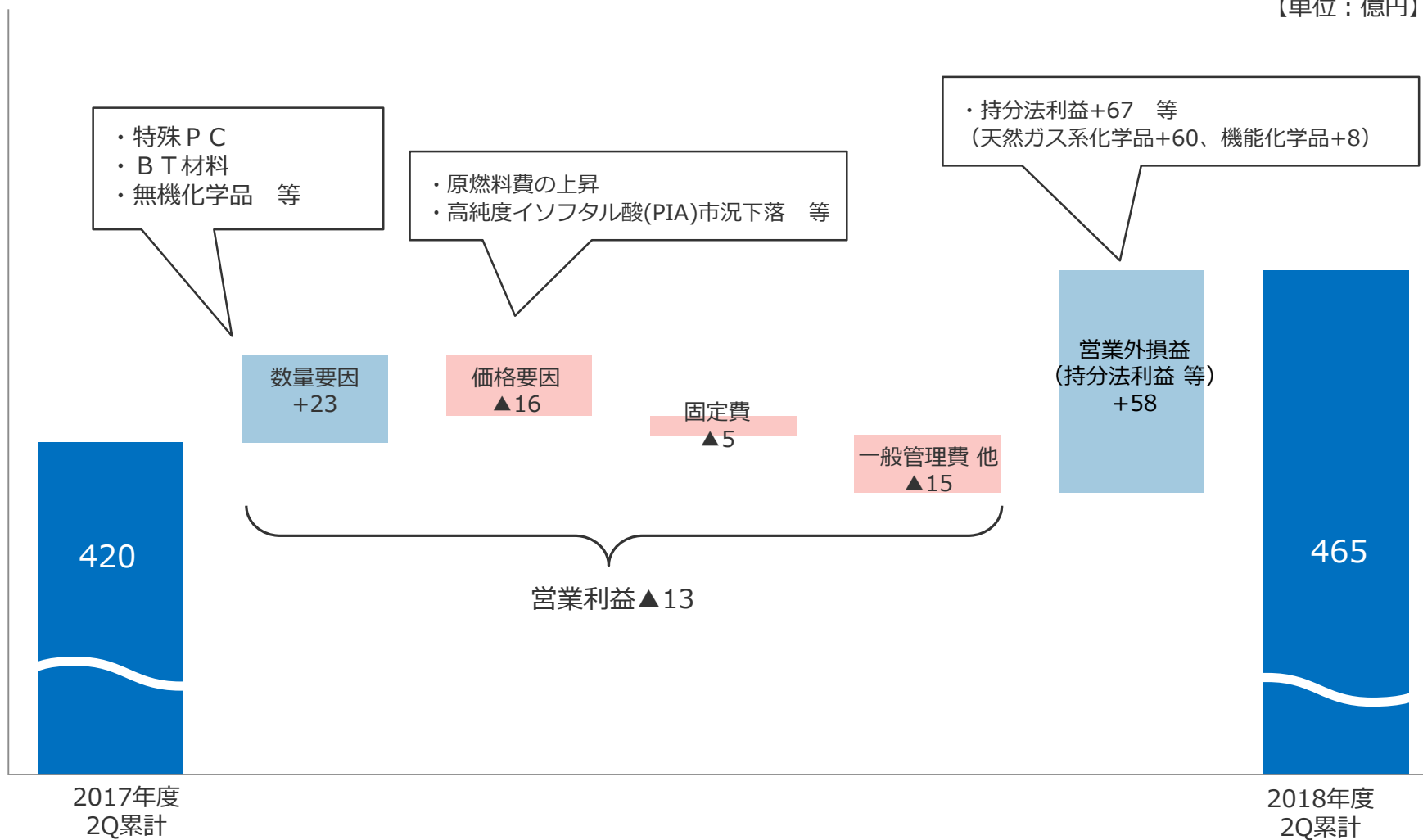
【単位：億円】

	2018年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	増減
<b>営業キャッシュフロー</b>	<b>310</b>	<b>419</b>	<b>▲ 109</b>
税金等調整前当期純利益	471	423	47
減価償却費	135	131	3
持分法利益	▲ 172	▲ 104	▲ 67
持分法適用会社からの配当金受取額	71	109	▲ 38
運転資金等	▲ 159	▲ 109	▲ 50
法人税等支払額	▲ 35	▲ 31	▲ 4
<b>投資キャッシュフロー</b>	<b>▲ 192</b>	<b>▲ 167</b>	<b>▲ 25</b>
設備資金	▲ 182	▲ 169	▲ 12
融資資金等	▲ 10	2	▲ 12
<b>フリーキャッシュフロー（差引）</b>	<b>117</b>	<b>251</b>	<b>▲ 134</b>
<b>財務キャッシュフロー</b>	<b>▲ 235</b>	<b>▲ 211</b>	<b>▲ 23</b>
借入金・社債増減等	▲ 160	▲ 164	3
自己株式取得	▲ 0	▲ 0	0
配当金支払額	▲ 74	▲ 47	▲ 27
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>7</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額（合計）</b>	<b>▲ 109</b>	<b>40</b>	<b>▲ 150</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>793</b>	<b>712</b>	<b>80</b>



## 2018年度 第2四半期 経常利益 増減要因

【単位：億円】



1 | 2018年度 第2四半期 決算概要

2 | 2018年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

## 2018年度 通期 業績予想のポイント

- ◆ 対前回予想：営業利益は下振れも、持分法利益の増額で経常利益は上振れを予想
- ◆ 営業利益：PC市況の下落や原燃料高等により下振れを予想
- ◆ 経常利益：高水準で推移しているメタノール市況の影響等により、上振れを予想
- ◆ 対前年比：増収ながら営業減益。持分法利益の増加で経常利益は小幅減益に留まる見通し
- ◆ 期末配当（予想）：35円（前年および前回予想と同額）

## 2018年度 通期業績予想

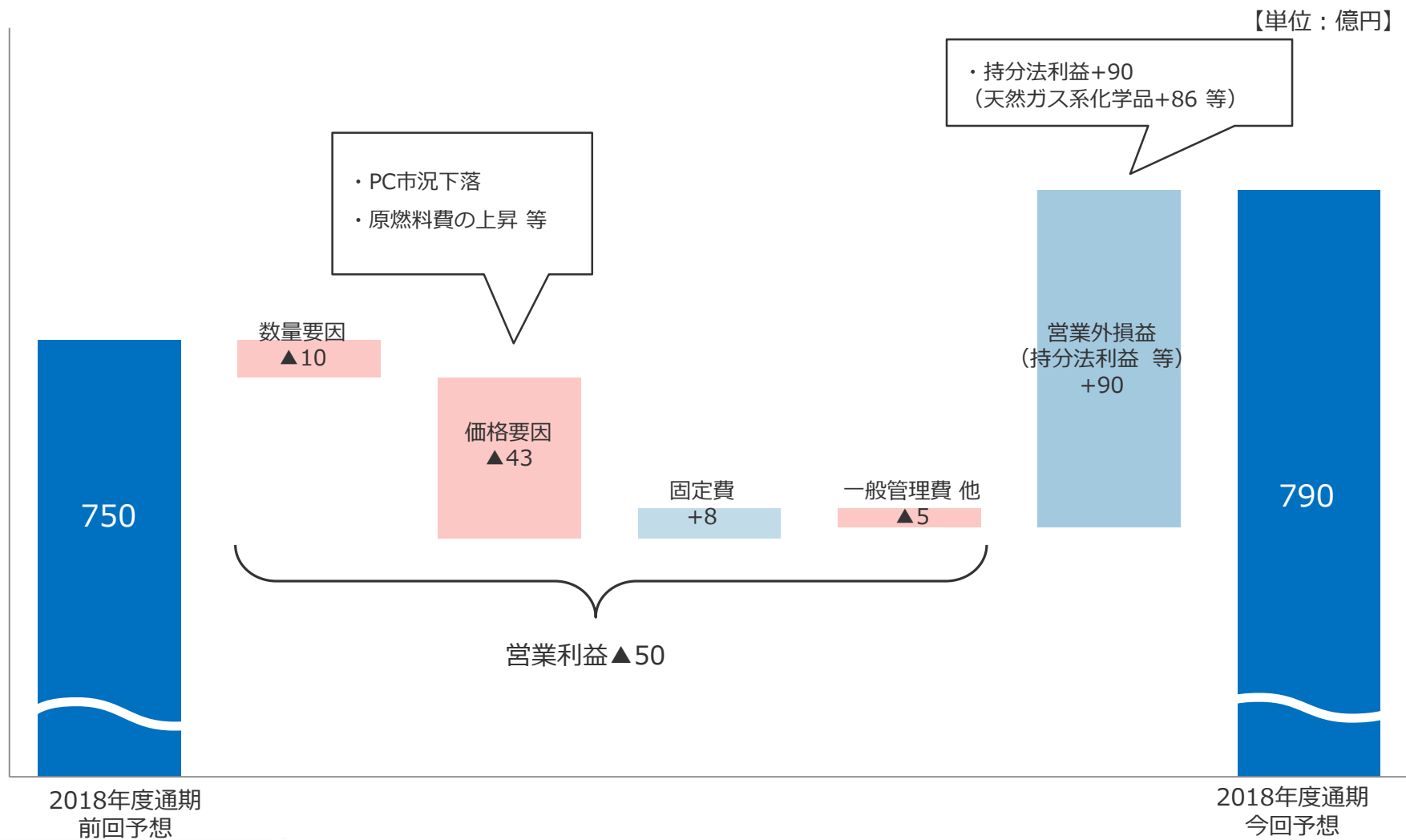
営業利益は下振れも、持分法利益の増加で経常利益は上振れを予想

【単位：億円】

	2018年度 今回予想	2018年度 前回予想*	増 減		2017年度 実績
			金額	%	
売上高	6,600	6,400	200	3.1%	6,359
営業利益	480	530	▲50	▲9.4%	627
(持分法利益)	(320)	(230)	(90)	-	(182)
経常利益	790	750	40	5.3%	807
税金等調整当期純利益	800	790	10	1.3%	734
親会社株主に帰属する当期純利益	620	610	10	1.6%	605
一株当たり当期純利益(円/株)	290.22	285.57			281.39
R O E ( % )	12.7	12.5			13.6
為替レート(JPY/USD)	110	110			111

\* 2018年5月9日公表

## 2018年度 通期 経常利益予想 増減要因



# 株主還元方針・株主還元

## 株主還元方針

- MGCグループは企業価値の向上を経営上の最重要課題と位置付けています。
- 配当については、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮して決定します。
- 内部留保の水準と株主還元の水準を考慮して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図ることを基本方針としております。

## 株主還元

### ● 2017年度

中間配当（実績）：24円/株

期末配当（実績）：35円/株

年間配当（実績）：59円/株

自己株式取得（2017年11月～2018年1月、約70億円）

自己株式消却（2017年11月、10百万株、発行済株式総数に対する割合：4.14%）

### ● 2018年度

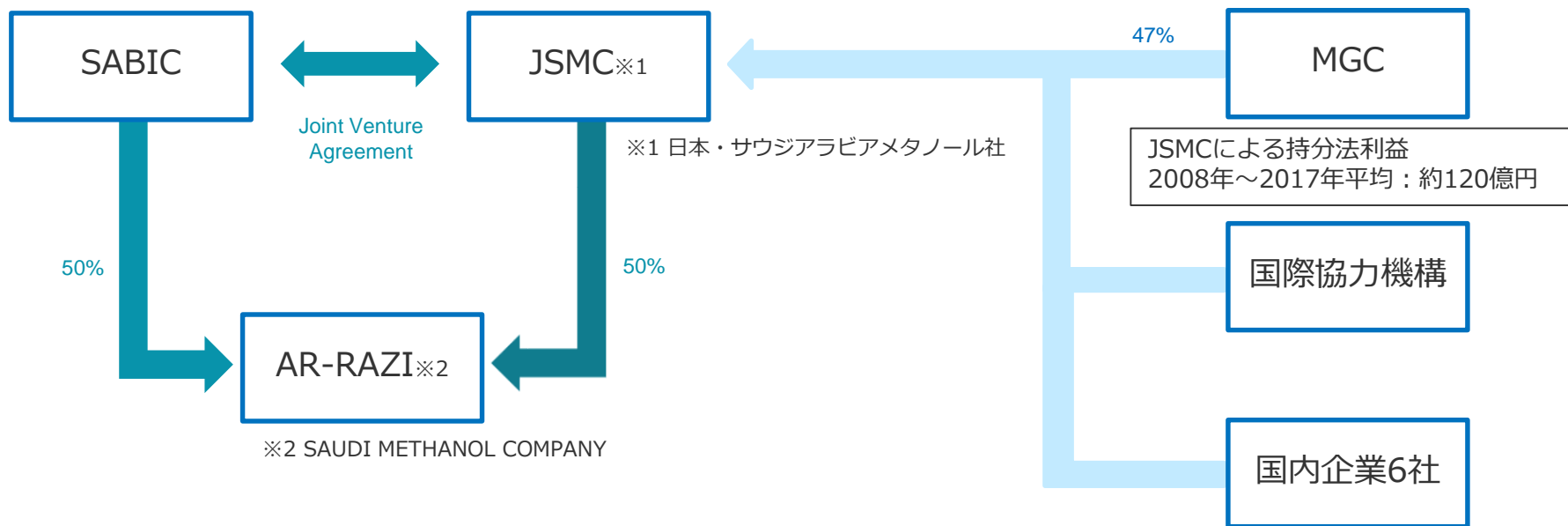
中間配当（実績）：35円/株

期末配当（予想）：35円/株

年間配当（予想）：70円/株（前期比 11円/株の増配）

## サウジアラビアにおけるメタノール合弁事業について

連結BSにおける投資有価証券計上額のうち、JSMC分：約411億円  
うち、JSMCの所有するAR-RAZI株式会社について計上されている額：約218億円



- 合弁契約期限：2018年11月29日
- JSMCはSABICとの間で、あらゆる可能性を視野に入れて交渉中
- 連結業績に与える影響は現時点で未定であり、業績予想には織り込んでいない
- 交渉中のため、現時点では開示できる内容が極めて限定的な状況。ご説明できる状況になれば、当社においても速やかに開示予定

1 | 2018年度 第2四半期 決算概要

2 | 2018年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要



## セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

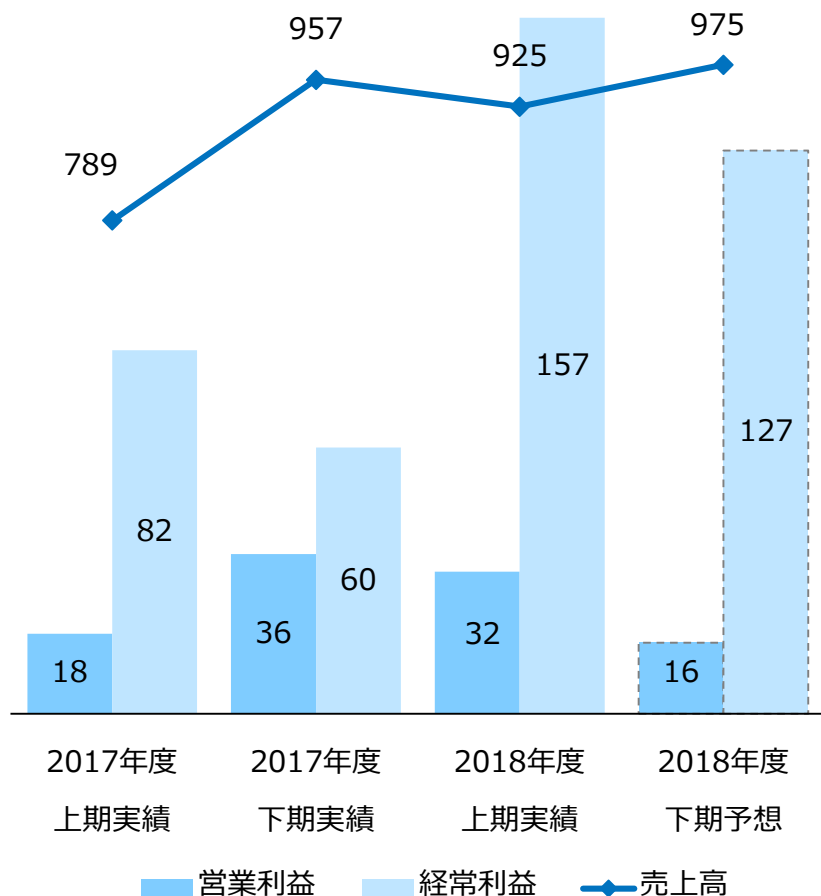
【単位：億円】

	2017年度実績*			2018年度（前回予想）			2018年度（今回予想）		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
<b>売上高</b>	<b>3,029</b>	<b>3,329</b>	<b>6,359</b>	<b>3,200</b>	<b>3,200</b>	<b>6,400</b>	<b>3,283</b>	<b>3,316</b>	<b>6,600</b>
天然ガス系化学品	789	957	1,747	865	827	1,692	925	975	1,900
芳香族化学品	1,050	1,080	2,131	1,075	1,077	2,152	1,073	1,078	2,152
機能化学品	979	1,071	2,050	1,057	1,080	2,138	1,061	1,072	2,134
特殊機能材	252	275	527	253	265	519	271	250	522
全社/調整	▲ 43	▲ 55	▲ 98	▲ 52	▲ 50	▲ 102	▲ 48	▲ 61	▲ 109
<b>営業利益</b>	<b>302</b>	<b>324</b>	<b>627</b>	<b>270</b>	<b>260</b>	<b>530</b>	<b>289</b>	<b>190</b>	<b>480</b>
天然ガス系化学品	18	36	54	13	19	32	32	16	48
芳香族化学品	139	117	256	103	89	192	101	72	173
機能化学品	134	162	296	139	146	285	141	98	240
特殊機能材	20	22	42	26	19	46	25	19	45
全社/調整	▲ 9	▲ 12	▲ 22	▲ 12	▲ 14	▲ 26	▲ 11	▲ 15	▲ 27
<b>経常利益</b>	<b>420</b>	<b>387</b>	<b>807</b>	<b>380</b>	<b>370</b>	<b>750</b>	<b>465</b>	<b>324</b>	<b>790</b>
天然ガス系化学品	82	60	142	88	92	180	157	127	284
芳香族化学品	135	110	245	96	86	182	97	66	164
機能化学品	172	207	379	167	174	342	178	115	294
特殊機能材	29	26	55	31	26	58	30	26	56
全社/調整	0	▲ 17	▲ 16	▲ 3	▲ 10	▲ 13	1	▲ 11	▲ 9

\* 2018年度より、セグメント間取引の調整方法及び当社の共通費等の配賦方法を変更しております。2017年度のセグメント情報についても、変更後の算定方法により作成したものを記載しております。（次ページ以降も同様）

## 天然ガス系化学品

【単位：億円】



### ● 2018年度 上期実績（前年同期比）

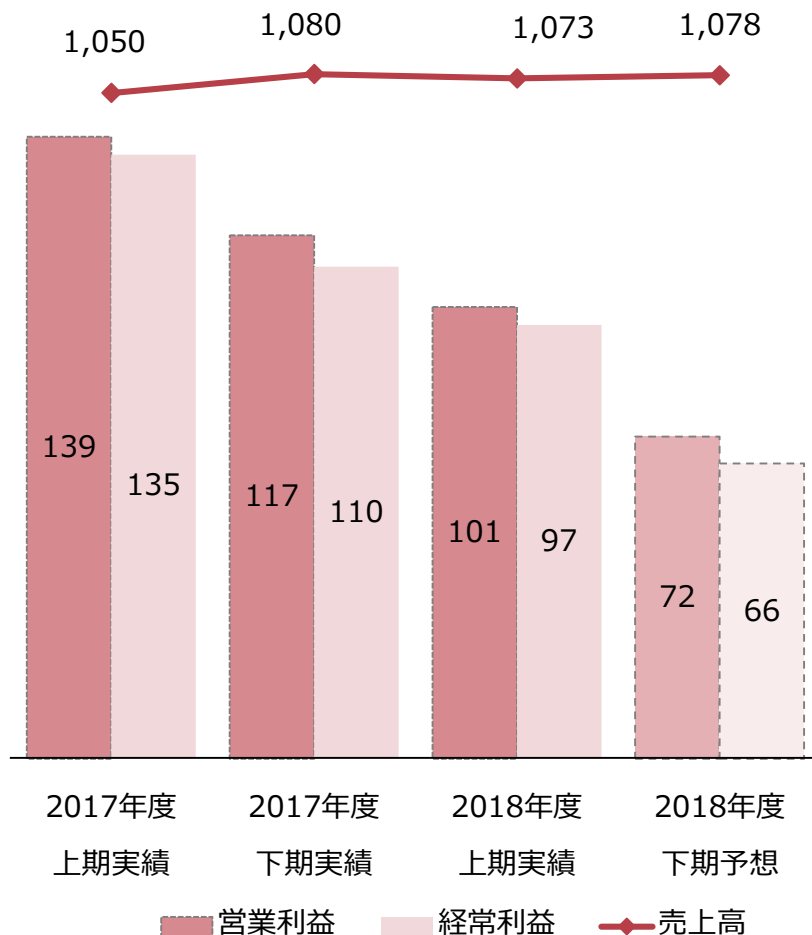
- ◆ メタノール市況：17年度上期：296ドル/MT  
→18年度上期：408ドル/MT
- ◆ 営業利益：原料高も、メタノール、MMA系製品の市況上昇等により増益
- ◆ 持分法利益：メタノール市況の上昇、ブルネイメタノール社の数量差（17年度に定修）等で増益

### ● 2018年度 下期予想（上期実績比）

- ◆ メタノール：引き続き高水準での推移を予想（上期：408ドル/MT→下期：390ドル/MT）
- ◆ 営業利益：新潟工場の修繕費増加やMMA系製品の市況下落等により、減益を予想
- ◆ 持分法利益：メタノール市況下落で減益を予想も、高水準が続く見通し

# 芳香族化学品

【単位：億円】



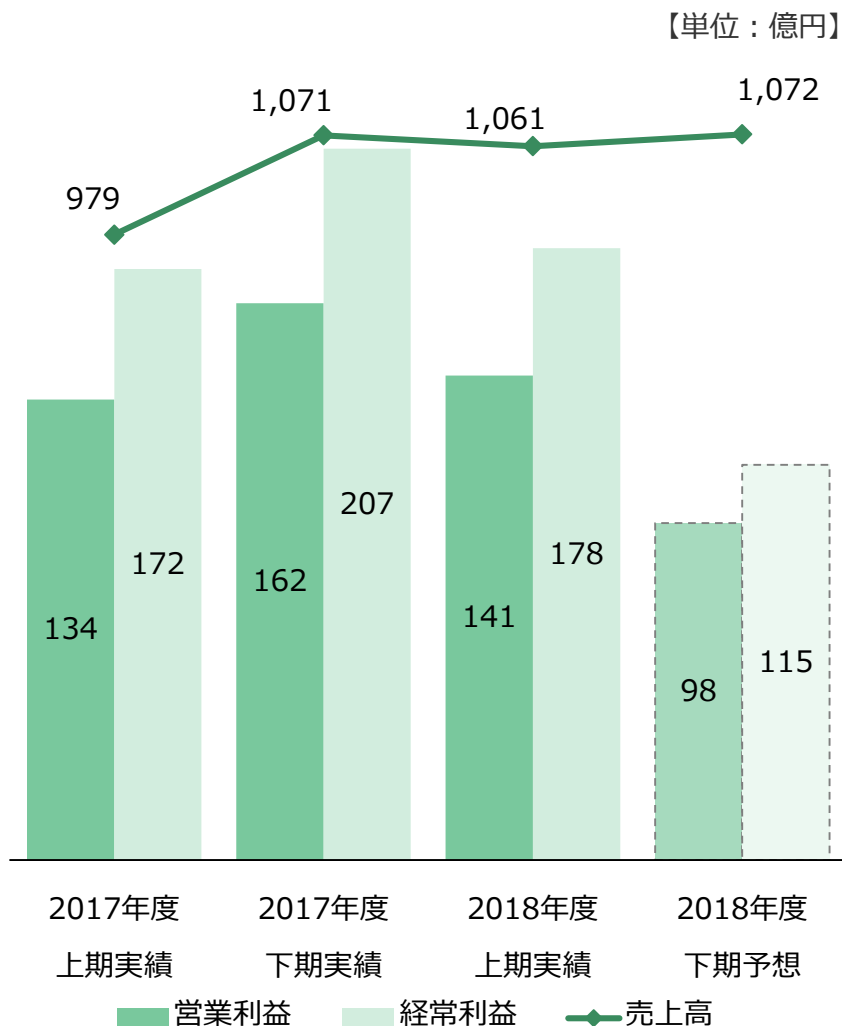
## ● 2018年度 上期実績（前年同期比）

- ◆ 特殊芳香族\*：原燃料費が上昇も、販売は堅調に推移し増収増益  
\*メタキシレンジアミン（MXDA）、MXナイロン、芳香族アルデヒド
- ◆ 高純度イソフタル酸(PIA)：スプレッド縮小で減益
- ◆ 発泡プラスチック(JSP)：原燃料価格の上昇等で減益

## ● 2018年度 下期予想（上期実績比）

- ◆ 特殊芳香族：販売は堅調も、原燃料費の上昇が利益圧迫要因となり減益の見通し
- ◆ PIA：スプレッド縮小を予想
- ◆ 単体は水島工場の定期修繕もあり、減益を見込む
- ◆ JSP：販売価格への転嫁等を見込み、改善の見通し

## 機能化学品



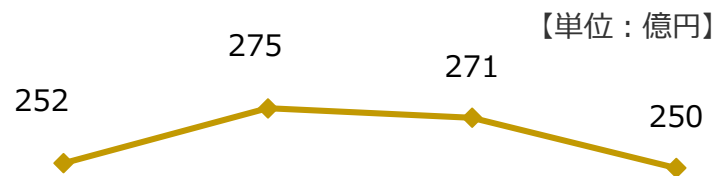
### ● 2018年度 上期実績（前年同期比）

- ◆ 無機化学品：販売数量は増加も、エレクトロニクスケミカル事業の競争環境激化等で減益
- ◆ ポリカーボネート(PC)：2Qに市況が急落。ただし、上期平均市況では前年を上回り、増益は確保
- ◆ 特殊PC：スマホのデュアルレンズ化の拡大等を背景に販売数量が増加
- ◆ PCシートフィルム：車載向けは好調も、フラットパネルディスプレイ向けが減少

### ● 2018年度 下期予想（上期実績比）

- ◆ 無機化学品：エレクトロニクスケミカル事業の厳しい競争環境が継続
- ◆ PC：2Qの市況急落がフルに影響。PC-BPAスプレッドは低水準の推移となり、中国で減益を予想
- ◆ 特殊PC：引き続き好調に推移する見通し
- ◆ PCシートフィルム：フラットパネルディスプレイ向けの需要は弱いものの、車載向けは伸長する見込み

## 特殊機能材

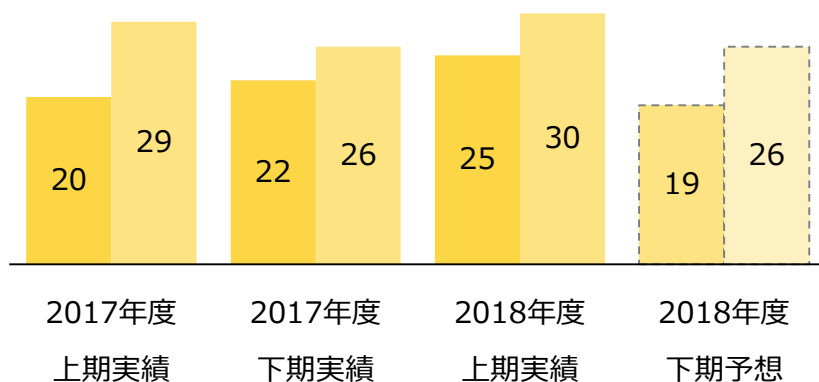


### ● 2018年度 上期実績（前年同期比）

- ◆ 電子材料：主力の半導体パッケージ向けBT材料は、引き続きメモリー分野が好調で増収増益
- ◆ 脱酸素剤：国内食品市場における競争や海外顧客の在庫調整の影響等により、減益

### ● 2018年度 下期予想（上期実績比）

- ◆ 電子材料：メモリーを中心に需要は安定しているものの、映像信号処理チップ向けの在庫調整やスマホの伸び悩みを見込み、減益を予想
- ◆ 脱酸素剤：季節要因による国内食品用途の販売数量増加等により、増益を見込む



■ 営業利益 ■ 経常利益 ◆ 売上高

# Appendix

## 参考： 各種指標（1）

【単位：億円】

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 (予)
設備投資額 (上期)	276 (141)	354 (146)	424 (224)	309 (177)	254 (138)	222 (103)	305 (149)	350 (137)	309 (139)	450 (186)
減価償却費 (上期)	295 (137)	290 (138)	277 (134)	230 (107)	235 (114)	237 (115)	267 (131)	256 (122)	270 (131)	270 (135)
研究開発費 (上期)	162 (74)	164 (74)	174 (88)	151 (72)	161 (80)	168 (80)	189 (92)	192 (96)	189 (95)	200 (91)
年度末人員(人)	4,920	4,979	5,216	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,172
一株当たり当期純利益 (円/株)*	26	84	55	▲35	66	192	154	222	281	290
総資産経常利益率 (%)	1.4	6.5	4.5	4.6	4.8	5.8	5.9	8.4	10.6	9.8
自己資本当期利益率 (%)	2.2	6.9	4.4	▲2.8	5.0	12.6	9.0	12.0	13.6	12.7
配当金(円/株)* (うち2Q末)	16.0 (8.0)	16.0 (8.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	28.0 (14.0)	32.0 (16.0)	38.0 (16.0)	59.0 (24.0)	70.0 (35.0)

\*当社は2016年10月1日に株式併合（2株→1株）を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

## 参考： 各種指標（2） セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）

【単位：億円】

年度		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
設備投資額(※)	天然ガス系化学品	71	140	139	63	45	57	53	90	60
	芳香族化学品	77	45	47	57	23	40	106	105	113
	機能化学品	81	148	216	150	112	76	99	81	110
	特殊機能材	45	18	18	33	66	43	38	66	19
	その他	1	3	1	3	5	3	7	5	6
	<b>合計</b>	<b>276</b>	<b>354</b>	<b>424</b>	<b>309</b>	<b>254</b>	<b>222</b>	<b>305</b>	<b>350</b>	<b>309</b>
減価償却費	天然ガス系化学品	75	86	77	62	63	69	61	50	51
	芳香族化学品	79	78	77	58	41	39	82	85	85
	機能化学品	86	80	84	77	95	92	88	86	91
	特殊機能材	51	42	35	27	31	33	30	30	35
	その他	4	4	3	3	3	3	3	3	5
	<b>合計</b>	<b>295</b>	<b>290</b>	<b>277</b>	<b>230</b>	<b>235</b>	<b>237</b>	<b>267</b>	<b>256</b>	<b>270</b>

※固定資産計上ベース



## 参考： 各種指標（3）

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期実績	下期予想
為替(JPY/USD)	103	117	122	118	105	112	111	111	110	110
為替(JPY/EUR)	139	139	135	130	118	119	126	133	130	130
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	104	63	56	36	43	51	50	62	73	80
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	432	358	301	230	230	327	296	381	408	390
原料キシレン (US\$/MT)	1,100	730	740	630	660	680	650	725	845	910
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,600 ~2,000	1,200 ~1,900	950 ~1,500	850 ~1,100	1,000 ~1,200	1,000 ~1,400	1,100 ~1,300	1,200 ~1,700	1,600 ~1,900	1,500 ~1,800
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,500 ~2,700	2,300 ~2,700	2,100 ~2,650	2,000 ~2,400	2,200 ~2,500	2,400 ~2,800	2,500 ~2,900	2,900 ~3,900	2,700 ~3,800	2,200 ~2,800

\*期間中の最小値および最大値を記載

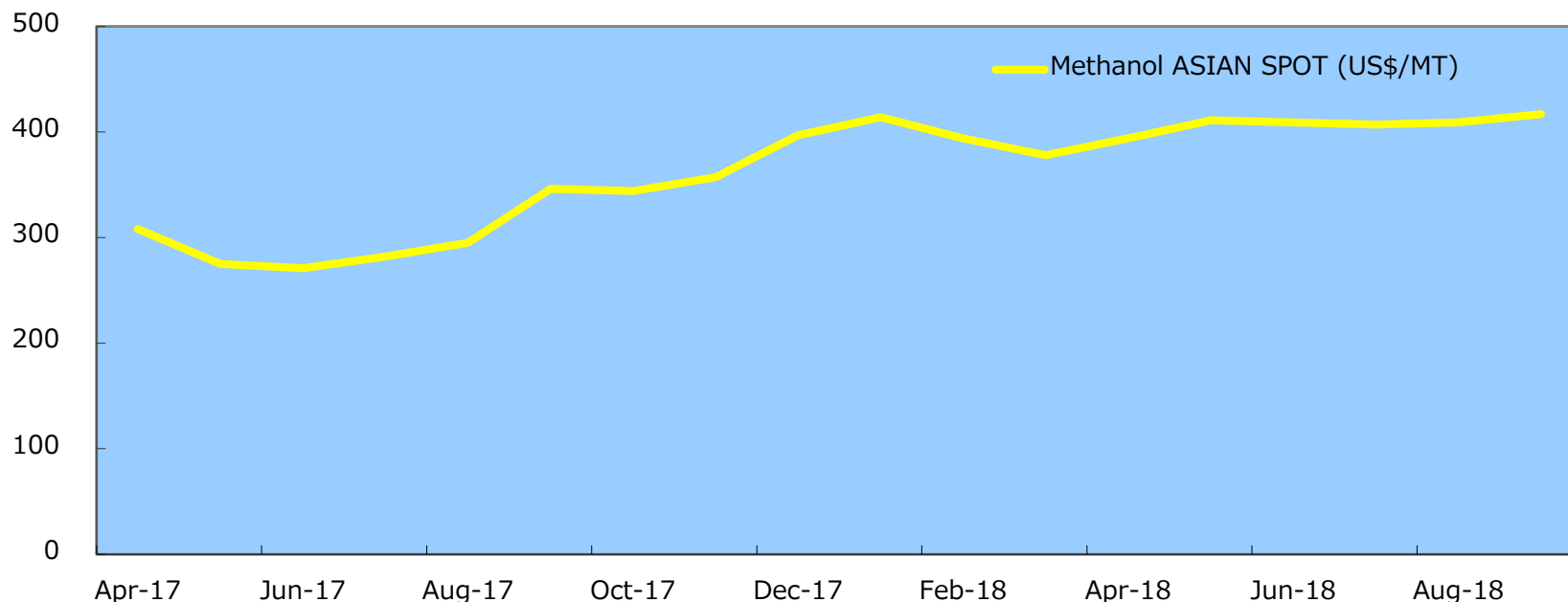
### 感応度（概算）

- 為替（USD）：1円の円高(円安)で、営業利益9億円/年、経常利益11億円/年の減益（増益）  
 為替（EUR）：1円の円高(円安)で、営業利益0.7億円/年、経常利益0.7億円/年の減益（増益）  
 原油(Dubai)：1\$/BBLの上昇（下落）で、3億円/年の減益（増益）  
 メタノール：メタノール市況1\$/MTの上昇（下落）で、持分法利益1億円/年の増益（減益）

※メタノールについては、2014年度は、上期：1-6月、下期：7-12月の価格を表記しております。  
 2015年度以降は、上期：4-9月、下期は：10-3月の価格を表記しております。

## 参考：メタノール市況の推移

(US\$/MT)



### 2018年度 上期実績：408 US\$ /MT

需要：堅調に推移。中国MTO※は、定修等による一時的な稼働率低下もみられたものの、9月には稼働率が上昇。

供給：6月末に米国で新規プラント（170万MT/Y）が稼働、9月にマーケットに流入。※Methanol To Olefin

### 2018年度 下期予想：390 US\$ /MT

需要：引き続き、堅調に推移する見通し。

供給：9月後半にイランで新規プラント（165万MT/Y）が稼働し、供給量が増加。12月以降は中国における冬場の天然ガス規制により、天然ガスを原料とするプラントの供給量減少を見込む。

## 参考： トピックスー1

### 三菱ガス化学記念財団設立

社会に対して価値を生み出す化学、化学工学等の研究を志す有為な人材への支援と同分野の研究に対する助成を通じて、直面する社会問題を解決し、持続可能な社会を実現するための一助となすことを目的として、「一般財団法人 三菱ガス化学記念財団」を設立し、10月1日から事業を開始いたしました。

当財団は、当社が平成33年10月1日に創立50周年を迎えることからその記念事業の一環として、また、「高屈折率・低複屈折特殊ポリカーボネート樹脂の開発」により「市村産業賞 本賞」を受賞したことを記念して設立したものです。

当初は、当社が長年にわたり事業活動を展開してきたアセアン諸国出身の留学生を中心に奨学金支給事業を行ってまいります。早期に公益認定を受けて研究助成事業にも活動範囲を広げていく予定です。

詳細につきましては、当財団ホームページをご覧ください。

<https://www.mgc.co.jp/foundation/>



### 化学の知見を生かして、「工場野菜生産事業」に参入

株式会社ファームシップとともに工場野菜の生産・販売事業を行う合併会社「MGCファームックス」を設立し、国内最大規模となる完全人工光型植物工場を運営することを決定いたしました。

合併会社では、当社が化学品の製造プロセスで培った環境制御のノウハウの活用等により、安全・安心に徹底してこだわった野菜を、市場ニーズに即応して計画的・効率的に生産し、消費者にお届けしてまいります。

<内観イメージ>



#### 「完全人工光型植物工場」とは？

従来の畑地栽培やハウス栽培とは異なり、施設内で植物の生長に必要な光、温湿度、二酸化炭素濃度、水分、栄養分等の環境条件を制御しながら、植物を栽培する施設です。省資源で、かつ天候に左右されることなく安定的に植物を生産することができます。

## 参考： トピックスー2

### 「BioPQQ™」が欧州委員会から新規食品（Novel Food）として承認

機能性食品素材「BioPQQ™」が、今年8月に欧州連合（EU）の欧州委員会より新規食品（Novel Food）として承認されました。

既に米国、日本では食品素材として認められておりましたが、今後欧州でも販売が可能となります。今年3月にはアンチドーピング認証も取得しており、幅広い分野で事業展開を進めていきます。



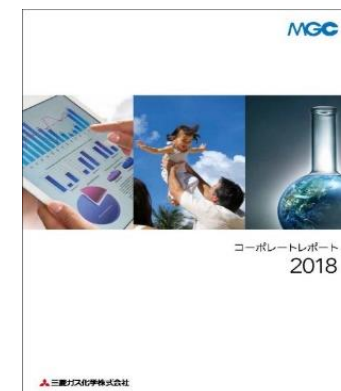
#### 「BioPQQ™」（ピロロキノリンキノンニナトリウム塩）とは？

酸化還元酵素の補酵素の一つとして1979年に発見された水溶性キノン化合物です。研究結果から、脳機能改善、抗酸化などの機能が確認され、認識能力の維持に効果を持つことが認められており、主に高齢者に向けたサプリメントや食品原料として展開しております。また、細胞内でエネルギーを作り出す器官である「ミトコンドリア」を増やし、機能を高める作用を有するため、エナジー系サプリメントとしても活用されています。

### 「コーポレートレポート2018」を発行

当社へのご理解をより深めていただくため、今年度より財務情報、非財務情報を一冊にまとめた「コーポレートレポート2018」を発行することといたしました。新中期経営計画、成長戦略、CSR/ESG情報、財務情報などを取りまとめて記載しております。

当社webサイト（<https://www.mgc.co.jp/corporate/report.html>）に掲載しておりますので、ぜひご一読ください。



## お問い合わせ先

**三菱ガス化学株式会社**

**広報 I R 部**

TEL 03-3283-5041

[www.mgc.co.jp](http://www.mgc.co.jp)

### < 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

社会と分かち合える価値の創造

 三菱ガス化学株式会社

MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.